

パフォーミング・アーツ・ウェーブ

4. オンド・マルトノ・コンサートとコラボレーション・ダンス公演

日 時：2011年11月29日(火) 19:00-21:00

場 所：愛知県芸術劇場小ホール

出演者・演奏曲目：

【第1部】 オンド・マルトノ ソロ&ピアノ・デュオ コンサート

演奏：市橋若菜(オンド・マルトノ) 横山歩(ピアノ)

オリヴィエ・メシアン：『未刊の音楽帖』オンド・マルトノとピアノのための4つの作品

池辺晋一郎：『熱伝導率』オンド・マルトノのために

ダリウス・ミヨー：『組曲』オンド・マルトノとピアノのための

トリストラン・ミュライユ：『ガラスの虎』オンド・マルトノとピアノのための



【第2部】 音楽とダンスのコラボレーション『プロメテウスの光』(委嘱新作)

作曲・エレクトロニクス：伊藤美由紀

振付・ダンス：鈴木ユキオ

演奏：市橋若菜(オンド・マルトノ)、佐藤紀雄(ギター)、大和田智彦(クラリネット)

ダンス：ダンスカンパニー「金魚」 安次嶺菜緒、堀井妙子、赤木はるか

舞台監督：大蔵聡子(トゥー・センス)

音響：堀山愛子

照明：平博章(ステージクルー・インパクト)

音楽テクニカルサポート：吉川敦



撮影：加藤光

「オンド・マルトノ」という20世紀初頭に生まれた電気楽器に焦点を当て、現代の新しい音楽に触れ親しむ機会を提供するとともに、中堅の音楽家、ダンサーに上演および作品創作の機会を与えることで、地域の芸術文化の振興に寄与するものとして開催した。

公演の前半では、オンド・マルトノのソロ曲やピアノとのデュオ曲を演奏。生の演奏を聴く機会は少ない「オンド・マルトノ」という楽器の、多彩な音色を楽しんでいただけるよう、演奏者の市橋若菜氏のレパトリーからプログラムを厳選して構成した。小ホールはクラシック専用ホールのようにアコースティックな残響がほとんど無く、PAにより残響を足してもらうことにより、よりよい響きとなるよう努めた。

後半は、伊藤美由紀氏に音楽を委嘱し、その曲を元に、振付を鈴木ユキオ氏に依頼して、音楽とダンスとのコラボレーション作品を創作して上演した。音楽は、オンド・マルトノに、ギター、クラリネット、エレクトロニクスという組み合わせで、非常に緊張感のある曲に仕上がった。またダンスも、動と静が対抗し、「引きちぎられるまでに翻弄される身体」と賞される鈴木らしいダンスとなった。創作の途中には、詩の朗読などダンサーが発する言葉を入れることについて、作曲家と振付家の意見が対立したが、双方が何度も話し合いを重ね、その結果できあがった作品としては、言葉が入ることで、豊かで良い作品にすることができた。前半、後半ともに、演奏・上演はすばらしく、非常に質の高い公演結果となった。